（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1170600520		
法人名	株式会社ウィズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・春日部花積		
所在地	埼玉県春日部市花積108-5		
自己評価作成日	平成28年10月19日	評価結果市町村受理日	平成29年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88　逸見ビル2階
訪問調査日	平成28年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

退去された方がおられて、空き室が有りましたが、職員一同明るく日々の業務に励んでおります。新入居の方もおられて、本人様とご家族様の不安もおおきかったのですが、職員全員で報告や情報の共有を図り、本人様のお気持ちに添ったお手伝いをする事で、信頼関係も生まれて今ではすっかりホームでの生活にも馴染まれました。他の利用者様にもホームが我が家と言って頂いており、入院された時などお見舞いに伺うと、「早くホームに帰りたい」と涙を浮かべられたり、大変有り難く感じております。ご家族様からもホームに入所してから、目立って状態が良くなったと言って頂いており、介護度数が良くなった方もおられます。利用者様の健康状態にはとくに留意しており、往診医や訪問看護師、訪問歯科医療とも情報を共有し、医療連携体制を万全にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者は、職員としての勤務を経て管理職に就いた為、周りの職員が意見を言いやすい環境である。管理者自身も、日頃より職員とのコミュニケーションをとるように心掛け、何でも聞ける雰囲気作りに努めている。研修を受けたいとの希望があれば、積極的に参加できるように配慮をし、職員一人ひとりのキャリアアップをサポートしている。市とは何かあればこまめに連絡を取り、先方からも「密に連絡を取っていきましょう」と声をかけてもらっている。運営推進会議には、必ず参加頂き、イベントの提案等意見を貰っている。今後は、地域とのつながりを深めていきたいと考えており、12月にデイサービスと合同で見学会の開催を予定している。見学会を機に、イベントを増やして交流する機会を作り、地域と共に生きていく事業所づくりを目指している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員会議等で話し合い、地域に根差した生活が出来るよう理念を作成し実施している。スタッフルーム内に掲示する事で共有し実践している。	開所当時に職員が話し合い、作成した理念を掲げ、ケアにあたっている。温かく穏やかな生活を大切にしている。利用者にとってどうしたら穏やかに居られるかカンファレンスで取り上げ、ケアに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外気浴の際に挨拶を心掛け、良い関係が築けるよう努めている。また、自治会に入り会報等を回覧する事で地域の一員として日常的に交流している。	散歩の際には、地域の方と挨拶をする等顔の分かる関係を作っている。地域に事業所を知ってもらう為に、イベントや散歩等で交流する機会を作っている。交流から介護の相談を経て、入居に繋がった例もある。	事業所が地域の社会資源となり、地域の方が気軽に立ち寄れる場所となるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の実践の様子や、支援内容を事業所便りに掲載し、家族や地域の人々に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議では取り上げられた検討項目について、経過、内容を報告し、理解協力を求めている。また、参加された方から意見、要望を受け、サービスの向上に努めている。	参加者には、医師・市の職員がおり、必ず参加をしている。利用者の日々の様子を報告している。又、空室に関しての相談に意見を貰うことや、「オレンジカフェ等のイベントを開催してはどうか」と提案を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者にも地域運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。職員、利用者、家族との交流を図り協力関係を築けるよう取り組んでいる。	月に1回は市へ足を運ぶようにしている。市からの研修の日程案内や毎月の空室状況の情報提供、運営推進会議への参加等、密に連絡を取り合うよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束について話し合い、正しく理解をした上で、身体拘束や言葉の拘束をしないケアを実践している。	法人研修が年複数回開催されている。職員会議とは別に、身体拘束についての会議を設け、事例を用いながら何が拘束に当たるか周知徹底をしている。職員から提案が上がるようになり、一人ひとりが拘束を考えるようになった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	拘束廃止委員会を設置し、問題提起し職員会議で話し合いをすることで、理解浸透に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方がいる為、後見人と連絡、連携を取り支援をしている。職員会議等で報告し後見人制度について実践しながら学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時に十分説明を行い、不安や疑問の解消に努めている。経費等の契約改正をする場合はその精算根拠の説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や意見箱の設置により、利用者、家族の意見を把握し迅速に対応している。また、月1回介護相談員が訪問し、意見や利用者の意向を聞き運営に反映している。	面会時には必ず声をかけるようにしている。毎月発行している一言通信には日々の様子を掲載し、事業所の雰囲気が分かるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、気軽に意見や提案が言い易い環境作りを心掛けている。職員会議で話し合いの場を設け反映させている。内容は会議録を作成し、確認後押印をし、共有している。	常にコミュニケーションを図り、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。研修に参加したいとの声があれば積極的に参加を促し、キャリアアップのサポートをしている。設備について希望があれば迅速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格修得に向けた支援を会社がバックアップしている。資格修得後は本人の意向を重視し、やりがいや向上心を持って働けるよう、環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社での研修に参加し、働きながら学習できる機会を作り、トレーニングしていくことを進めている。研修報告は職員会議で報告をし、レポート作成し掲示する事で全職員が確認をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修会、セミナーの参加、会社の他施設との交流、研修生の受け入れを通し交流、情報交換をすることでサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で今までの生活歴や状況を把握するように努めている。可能であれば家族と共に見学して頂き、本人が求めている事や不安を理解し、受け止めていく事で、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や不安、サービス状況、経緯についてゆっくり耳を傾けながら聞くよう心掛けている。不安や要望の相談に乗り、より良い信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限りその時必要な支援を見極め、柔軟に対応している。他サービスの必要性がある場合は我が社の他事業所の紹介や地域包括支援センターに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや、認知症による根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、共に過ごす中でその人の心に寄り添い、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、職員と家族が相談し、共に本人を支えていく協力関係を築けるよう努めている。ご家族の負担が大きくなり過ぎない様、配慮し働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通して本人がこれまで大切にしてきた馴染みの知人、友人との交流が途切れないよう支援に努めている。	月2～3回友人が来所する方がいる。その他、なじみの美容院に出掛けたり、旅行やお盆、お正月の際の外泊等を行っている。馴染みの場所へ出向く時は、家族の協力の下行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う者同士で過ごせるよう配慮している。また、一人ひとりが孤立しないよう職員が調整役になり、皆で楽しく過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、契約終了後の相談や支援の希望はないが必要があれば対応に努めて行きたい。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけし、表情や言動から希望や意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方は、家族や関係者から情報を得て、本人本位に検討している。	表情や仕草、言動等日常の様子から気づいたことを職員間で話し合い、意向の把握に努めている。管理者は、「不穏な時や拒否をする時は、何故なのか理由に気づけるように考えて動いて欲しい」と職員に伝えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査で得たこれまでのサービスの経過や生活歴を把握し、本人との会話の中や家族の面会時に少しずつ情報を収集し、状況の把握、理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の小さな変化や言動に注意、注目し現状の把握に努め、申し送りや職員会議、フロア会議等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族の意向を聞き職員会議やフロア会議でアセスメント、カンファレンス、モニタリングを行い、連携ナースや歯科衛生士等の関係者とも話し合い介護計画を作成している。	全体会議や担当者会議、カンファレンス等を開き、利用者・家族の意向を聞きながらプランに反映させている。家族へは書面にし、説明を行い同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を生活記録に反映させ、実践や見直しに活かしている。生活記録は一時間ごとに様子を記録している。状態の変化がある場合は詳細を記録し、職員間での情報の共有を徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は利用者や家族の要望に応じられるよう心掛け、散歩や外気浴を希望時には実施できる様取り組んでいる。また、急な通院介助等が必要な場合は柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の介護相談員の訪問、年2回の避難訓練では消防署の協力を得ている。近隣の教会とは年間を通し交流をし親交を深め、ボランティアの訪問により、安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時に経過を報告する事で、利用者のかかりつけ医と連携、協力が得られるよう努めている。また、ホームの連携医との関係も築けており異変時には相談、指示をもらい適切な医療を受けられるよう支援している。	提携医療機関とは24時間連絡が取れ、いつでも指示を受けることの出来る体制を取っている。かかりつけ医受診は、基本的に家族対応である。健康状態は書面にし、利用者の様子が常に把握できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算訪問看護の看護師が週に1度訪問し日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。日々の生活の中での変化や気付きを看護師に伝え連携を取り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法や様子の情報を医療機関に提出し、出来る限り見舞うようにしている。また、家族や病院関係者と連絡をとり、情報交換や相談をし、速やかな退院支援に結び付くよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期が予想される場合、早い段階で職員全員で支援方法を検討し、家族と相談、説明をしながら方針を決め、共有し支援に取り組んでいる。	入居契約時に終末期の対応について説明をし、必用になった際には、家族に改めて説明している。本人や家族の希望を大切にし、看取りを行うことや必要に応じ病院の紹介等を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員会議等で緊急時の対応について話し合い、速やかに応急処置が出来るよう心掛け、実践力を身につけている。また、職員会議でAEDの使用方法を実際に再確認しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防署の協力を得て、併設のデイサービスとの合同避難訓練を実施し、消防署、設備会社担当者にも参加して頂き、避難方法の相談やアドバイスをもらい活かしている。	年2回、両日消防署員協力のもと実施している。職員の連絡網や家族・関係機関の連絡先等を1冊のファイルにまとめて保管をしている。地域には防災訓練の案内を出し、参加を呼び掛けている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉掛けや対応は尊敬の念を持って行うよう職員に指導している。生活記録の記入の際、共有空間で記入する事もあるが、生活記録の保管場所を定め、個人情報の取り扱いに注意している。	居室にある物は勝手に触らない・ノックをしてから入室をする等、プライバシーに配慮している。個人情報の管理について勉強会を行い、例えば、マイナンバーの取扱いについて受取記録を残し、管理するようにした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見、考え、希望を尊重し、実現出来るような対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのタイムスケジュールはあるが、その人らしい生活が出来るよう、一人ひとりの体調や希望に配慮し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回カットボランティアが訪問し、希望者は散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせて食事形態や食器、配置を工夫している。職員は利用者の隣に座り会話を楽しみながら食事をしている。家事の得意な方には食器拭きを手伝って頂いている。	厨房職員におせち等のイベント食の希望を出し、季節の料理を味わえるようにしている。又、出身地の食べ物を取り入れることもしている。ホットケーキやクレープ等を利用者と職員が一緒に作った際は、好評であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を生活記録、チェック表に記録をしている。職員間で情報を共有し、摂取量の少ない方には体調を観察し、無理のないよう配慮しつつ促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは声かけや誘導を行い、個々の力に応じて見守りをしたり、介助を行っている。歯科衛生士からアドバイスを受け清潔保持に努めている。また週3回は入れ歯洗浄剤で洗浄し、清潔を保っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや案内をする事でトイレでの排泄を促している。個々の様子に注意しトイレへ行きたいサインを察知し素早く案内する事で、排泄の自立支援に努めている。	排泄チェック表を用い、パターンを把握している。回数や声かけ誘導方法等細かく記入し、職員で共有しながら、トイレでの排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水を促し便秘予防に努めている。また毎日ラジオ体操をし体を動かす機会を設けている。また、起床時に冷たい水を飲んで頂いたり、ヨーグルトを食べたり、個々に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに、一人ひとりの体調や希望に合わせた支援をしている。入浴拒否のある方は無理強いはせず、気分の良さそうな時にお誘いをし気持ち良く入浴できるよう努めている。	なるべく本人の希望と合わせながら曜日を決めずに入浴をしている。歌が好きな方は、一緒に歌を歌いながら気持ち良く入浴して頂いている。無理強いせず、曜日を変えたり声かけ方法の工夫に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中出来るだけレクリエーションへの参加を促し、夜間安眠出来るよう生活のリズム作りをしている。また、個々の体調等を考慮し日中も必要に応じて適度な休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導、服薬管理で職員が把握、確認をしている。薬の処方や用量が変更になり、状況の変化が見られる時は、連絡ノートに詳細を記入し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等の簡単な家事を手伝って頂いている。また、書道や塗り絵等一人ひとりの力を発揮し、楽しみながら気分転換が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日に職員と外気浴や散歩に出掛けている。出来るだけ希望時に対応出来るように心掛けている。普段行けない場所でもご家族が外出支援をして下さっている。また、外出時の注意点や最近の変化をご家族にお伝えしている。	天気の良い日に事業所の周りを散歩することや、訪問販売時に自身で品物を選び購入する等、外に出る機会を作っている。教会のイベントに参加した際は、利用者は大変喜ばれた。家族の協力を中心に外出を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預ったお金をホームと本社で管理、保管しているが、利用者の管理力に合わせて自己管理されている。職員は本人がお金を持つ事の大切さを理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、希望が無く実施していないが、希望時には可能な限り支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物を展示し、季節の移り変わりを感じられるようにしている。照明等の調整、テレビの音や職員の会話のトーンに注意し、落ち浮いた雰囲気で生活出来るよう配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者の様子に合わせ、2階はオルゴール等のBGMを流し、1階は演歌等歌がある曲を流している。利用者の中にはエアコンがダメな方が居るので、温度管理に気を付けている。特に夏は脱水にならないよう注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールや玄関にベンチや縁台を置き、利用者がゆっくりくつろげるスペースを作っている。また、フロア以外に廊下にも椅子を置く事で一人になれる場所の工夫もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら、慣れ親しんだ調度品や写真を置き、本人の居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	食後、居室に戻る方が多い為、居室にはくつろげるよう馴染みの物を持ち込んでいる。犬猫が好きな方は動物のポスターを貼ったり、テレビや仏壇、読書が好きな方は本を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは大きな文字と絵で分かりやすいように表示し迷わないよう工夫をしている。危険がある場所には扉に鈴を付け、職員が素早く対応出来るようにしている。		